

第5章 施策の進め方

第5章 施策の進め方

第5章では、第4章で位置付けました「施策目標実現のための具体的な取組」を確実に実施するため、各施策の実施時期や優先度等を定め、施策の進め方を示します。

1 施策の重要度・優先度

第4章で位置付けました各施策は、それぞれが海老名市にとって重要な施策ですが、全ての施策を同時に実施することは、財政的制約や流域下水道をはじめとする他の事業との調整等が必要であり現実には実行できないと考えられます。そのため、海老名市下水道総合計画において、重要度や優先度を考慮し、事業の平準化を検討したうえで、これまでに掲げてきました各施策の進め方を決めていきます。

(1) 重要度

各施策の重要度は、以下の事項を考慮して決定します。

- 人命、市民生活へ重大な影響
- 事故を誘発する可能性
- 施策を実施しないことで、被害や負担等が拡大する可能性
- 地震等災害発生時の影響
- 広域的に影響を及ぼす可能性
- 循環型社会の創造への寄与

(2) 優先度

施策の優先度もしくは同一施策における対策施設の優先度については、前項の重要度の他、以下の事項を考慮して決定します。

- 重要な幹線区分
- 防災拠点等の優先度
- 二次災害^{*}の危険性及び被害状況から見た緊急度
- 環境への影響度（環境負荷の低減による地球温暖化防止、水環境の保全）
- 財政的な影響度（海老名市負担額への影響含む）
- 社会的な影響度（他のインフラ事業や市民生活等）

(3) 各対策の検討条件

海老名市下水道総合計画期間に実施していく各施策について、各事業の重要度・優先度にかかる検討条件を整理した結果を表5-1に示します。

表5-1 各事業の重要度・優先度の検討条件

施策	検討条件
地震対策	<ul style="list-style-type: none"> ・人命への影響 ・施策を実施しないことで、被害等が拡大する可能性 ・被災時の復旧に影響 ・防災拠点等の優先度 ・二次災害の危険性及び被害状況から見た緊急度
浸水対策	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を実施しないことで、被害等が拡大する可能性 ・広域的に影響を及ぼす可能性
生活排水	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な影響度 ・環境への影響度 ・広域的に影響を及ぼす可能性（水質）
資源利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会の創造への寄与 ・環境への影響度
長寿命化	<ul style="list-style-type: none"> ・事故を誘発する可能性 ・施策を実施しないことで、被害等が拡大する可能性 ・地震等災害発生時の影響
下水道経営	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な影響度 ・財政的な影響度

● 2 各施策に基づく事業の実施時期

海老名市下水道総合計画期間に掲げた各施策については、生活排水対策や浸水対策等既に実施中の事業や地震対策や長寿命化対策等の事業着手のための計画策定を前提に進める施策があります。

各施策の重要度は、防災や市民生活への影響の観点から全て高いものの、優先順位は市民生活や環境への影響を考慮し、地震対策、浸水対策、生活排水対策、長寿命化対策を優先します。

また、財政的な負担を考慮し、順次、循環型社会^{*}の創造や下水道経営の効率化を図る事業として下水道資源の利活用や効率的な下水道事業の経営に関する施策を実施する方針とします。

